

「宿利原小学校の宿利原棒おどり・薩女おどり伝承活動の取組」

1 学校名

錦江町立宿利原小学校

2 学年・人数

1年生～6年生（計12名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

7月24日（火）、7月31日（火）、8月7日（火）
（宿利原小学校体育館）

(2) 発表の日時・場所

平成30年8月11日（土）
宿利原納涼大会（宿利原小学校）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

宿利原棒おどり（やどりはらぼうおどり）
薩女おどり（さっじょおどり）

(2) 由来

- ア 宿利原棒おどり
昔から宿利原・池田地区に伝えられている。
- イ 薩女おどり
宿利原に昔から伝えられている。

(3) 構成等

- ア 宿利原棒おどり
踊りの人数に制限はないが、4人1組になって踊る。服装は白浴衣、たすき、はちまき、脚絆、草鞋、手甲を身に付ける。
道具は約1.2mの棒の先に刃渡り15cmの鉞がついているものと、約60cmの鎌を用いる。二人が鉞・二人が鎌を持って踊る。
- イ 薩女おどり
女の子の踊りで、服装は緋の浴衣、陣笠をかぶる。
道具は、約45cmのなぎなたを右手に持ち、1文銭を針金でつなげたものを左手に持ち、ガラガラ音をたてて振りながら踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

宿利原棒おどり保存会の方は男子に、薩女おどり保存会の方は女子に指導及び伝承を行っている。

学校と地域住民、そして、各保存会の方々としっかりと連携が図られており、平成27年度からは、学校が保存会へ指導の要請をしていく形ができています。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

文化財伝承・活用の取組は、今現在もどの方法がベストであるか模索している最中である。学校・文化財保存会・児童が協力し伝承できている今の形が良いのではないかと考えている。

発表する場をもう少し増やし、出演者だけでなく町民の方々にも「このような文化財が錦江町にはあるんだ」と認識していただけるように、今後も活動を工夫していきたい。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【納涼大会での宿利原棒おどりの様子】 【納涼大会での薩女おどりの様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童】

覚えるのは大変だけど楽しい。

最初は恥ずかしかったけど、今は楽しくなっている。

【保存会】

先生方も児童も、真剣に文化財保護及び伝承に取り組んでいただきありがたい。

【教員】

児童が一生懸命しているので、楽しみも含めながら応援したい。